南飛騨 ぼうさいかわら版

目次

P2 ・ 金山町昭和35年の豪雨災害
P3 ・ 尾崎小学校で出前授業「親子でまなぼうさい
P3 ・「福島を生きてゆく」 私達が知らない福島
P4 ・ おらんとこの自主防災（郡上市防災士会）

下呂市防災士会　検索

本誌は下呂市ホームページでもご覧出来になれます。

小坂町落合区、内閣府地区防災計画モデル事業（その2）

みんなでつくる 地区防災計画

平成28年度に全国で7地区が選出され、落合区はその1地区として、下呂市防災会議委員でもある、兵庫県立大学減災復興政策研究科阪本真由美准教授の指導の下で、地勢.気候.風土に適した「落合区防災計画」を地区 1 丸となって練り上げています。

地区防災計画モデル事業とは？

平成26年から28年に全国で44地区が選定されて、住民が区御住する地区の災害リスクを把握してその対処方法を検討した上で、それらを実施する方策などを地区住民が自ら定めて作成するもの。

それぞれの地区の特性に応じた防災計画で、計画に基づく防災活動が実践され、定期的な評価や見直しが継続的に行われることが重視されています。

【落合区の現状】

- 世帯数80世帯 ． 住民数218名.65才以上の占める割合は49.8%に達する。（平成29年1月現在）
- 小黒川.濁河川の2河川が合流して小坂川となり、集落のほとんどは河川沿いに点在している。
- 集落のほとんどが、「土砂災害特別警戒区域（ﾚｯﾄﾞｿﾞｰﾝ）」「土砂災害警戒区域（ｲｴﾛｰｿﾞｰﾝ）」内にある。
- 主要道路についても、土砂災害特別警戒区域や土砂災害警戒区域にかかる部分がある。
- 地区が「猪鼻断層帯」から約2kmの地域にある。
- 御嶽山の噴火による降雪時期の「融雪型火山泥流到達区域」内である。

落合区航空写真

落合地区防災計画作成検討会議を進める中で、地区が潜在的に抱える地形による自然災害のリスクが認識出来た。 防災減災を推し進めるうえで、地区における組織の現状と弱点が把握できた。

【防災計画に着手してから地区防災で行った改善など】

- 地区住民の多くが、自分達の住む地区の自然災害の危険性に気付いた。
- 避難場所が1ヵ所であったが、災害の種類により一部の住民たちが危険個所を通過することが判り、風水害の場合は落合公民館と旧湯屋小学校体育館の2か所とした。
- 一時避難場所の再検討を行い、自治会の組単位にとらわれない小グループ分けを行った。
- 避難行動時のグループ毎に要配慮者を確認して、声掛けなどの担当をお願いした。

金山町の豪雨災害。『昭和34年伊勢湾台風・35年台風12号・昭和36年第二室戸台風の三年連続』

昭和35年(1960)8月13日台風12号により、未明から飛騨地域を襲った集中豪雨は各地区に大洪水や土砂災害をもたらした。 益田川と馬瀬川の合流直下にある金山橋は濁流の冠水1.3mに達し、金山区・大船渡地区・では流失・全壊・浸水の家屋が多数あり、下原地区では土砂災害により犠牲者が出た。

午前10時50分に避難指示が発令され、同日午後4時30分岐阜県は金山町に災害救助法を発動した。

懸命に流木の処理をする、
地元住民と消防団員
金山町.橋本町地区

午前10時50分
避難指示発令。
金山町.橋本町地区

午前7時40分山崩れが発生して民家が全壊し、一家5名が生き埋めになり懸命の救助作業状況。
2名死亡3名が重傷を負った。
また、通行人1名も同家屋の下敷きとなり重傷を負った。

馬瀬川の濁流が街中に流れ込む。
午前10時30分
金山町.上妙見町地区

【 昭和45年の竹原水害の写真を探しています。編集後記の電話番号へご一報下さい 】

尾崎小学校で出前授業『親子で学ぼうさい』(1年生18名 ・ 2年生21名 ・ 全校生徒113名)

小学1･2年生児童と保護者を対象に行われ、ランチルームで親子が向かい合ってお話を聞きました。主催者の川西新聞販売所の田中彰人さんから、自分達の住む地域で万一大きな災害が起こったら、**「子供達は自分で命を守れるか」「親は我が子の命を守れるか」**との不安を学校に相談し、理解を頂いて実現できた「親子で防災･減災について意識を高めるきっかけになればと思います」と話されました。 講師の五十嵐浩子さん（福島県浪江町から高山市へ移住）からお話の前に、非常食のポリ袋で作る蒸しパンケーキを教わり鍋でゆであがる間に、自然災害に対する心構えや準備についての話を聞きました。「通学路にアブナイと思う所はないかな、あったら先生やお母さんお父さんに云ってね」「 地震が起こって寝ている時に上から重い物が落ちてこないように」「台風で朝から避難する事に迷って、夜に避難するようにならないように」など児童もお母さん達も真剣に聞き入っていました。

（あいさつされる提案者の田中彰人さん）

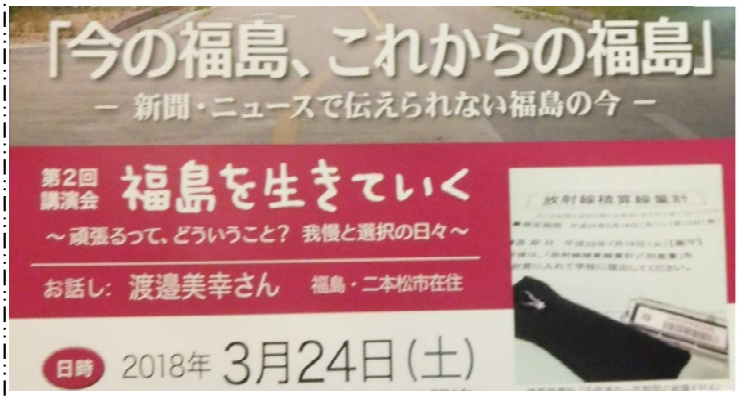
（五十嵐さんの、避難グッズの数々を見学）

講演会「福島を生きてゆく」私達が知らない福島･･･（萩原町 尾崎 あさんず会館）

福島県二本松市にお住まいの渡辺美幸さんを講師に招き、福島キッズ県外一時保養プロジェクト「ゆったり、湯～らーりin下呂」実行委員会により開催されました。 旭野委員長との対談形式で進行され「マスコミなどでは伝えられない福島の今」を約80名が聴講しました。

1男2女の母である渡辺さんの原発事故による放射能から、必死に我が子を守ろうとする姿勢と周囲の軋轢や葛藤を話されました。 震災や事故による他地域からの人の流入などによる治安への不安、原発直近からの避難者との立場の違いによる摩擦や、福島ナンバーの車で出掛ると駐車を断られるなどの、心無い仕打ちを受けた、などとの話もありました。

どんなことがあろうとも、「福島が大好きだから、信念を持って福島を生きてく」と、時折声を詰まらせながら話される渡辺さんの言葉を集まった人達は静かに聞き入っていました。



おらんとこの自主防災

（郡上市防災士会） 八幡・大和・白鳥・高鷲・美並・明宝・和良

ー設立までの経緯ー　平成28年3月16日発足（将来的には、NPO法人へも視野に入れる）

☆平成26年の中頃から複数の防災士から、防災士組織設立への機運が高まっていた。

- 市内の防災士のネットワークを作り、防災士同士の協力関係作りが必要である。
- 地域防災活動のリーダーとしての知識.技能の力量向上の場が必要である。
- 市役所との緊密な連携を図り、定期的な情報交換を行いたい。
- 女性防災士の団体を作りたいとの思いがある。 などなど…

☆行政側としても地域防災力の効果的な向上のために、地域防災の核となる防災士との連携体制の確立が不可欠であり、設立に向けて官民で準備会議を重ね（希望会員54名）で設立に至った。

役員会
- 理事7名（正副会長を含む）
  （全体の活動方針や、重要事項の意思決定）
- 会計1名
  （会費などの管理・記帳・報告）
- 幹事2名
  （会計の監査。会の運営評価.提案）

委員会
- 研修委員会（23名）（研修会開催など、会員の資質向上への事業）
- 広報委員会（23名）（地域での活動の推進や調査、活動PR、会員勧誘）
- 支援活動委員会（25名）（災害時要配慮者などの支援、家具などの転倒防止対策支援）

防災意識を防災文化に、
楽しくなければ防災士会じゃない！

- 会員数72名（平成30年5月30日現在）
- 男性63名　女性9名　・一般47名　市職員25名
- 活動費は、会費でまかなっている。（年3000円）

（会員作成の模型で、家具固定の実演講義）

- 本年度役員前期の主な活動
  市内七地域の防災士活動などについて、巡回して各地域の課題などを把握し、会の活動に反映する。
- 本年度各委員会の活動目標
  これまで培ってきた活動を更に進化させて、地域の減災と防災力の向上に楽しく努める。

（救命講習には、多数の防災士が参加した）

（編集後記） 本誌の記事内容について「防災士の活動だけ掲載すべきではなかろうか、他組織の防災活動の掲載は不要ではないか」とのご提案を頂いた。 防災士会広報誌と銘を打ってあるからにはそう有るべきとのお考えはごもっともである。 が、掲載記事に結びつく情報が編集者に届くのは極めて僅かです。 防災士の活動だけにと申されると編集者としてはお手上げになります。「防災にかかわる者同士の連帯感」をとの思いもあり、もう少し今の編集方針でご理解を願います。

（掲載記事随時募集）E-mail tuneki-jh2oqm@con.aitai.ne.jp ☎090-2578-1601　広報担当 金子恒紀